

はじめに

奈良県は、世界的に有名な古都であり、歴史的な文化遺産ぶんか いさんに恵まれた地です。古くは古墳の時代よりシルクロードの旅人に運ばれた文化がこの地に流れ込み、日本文化の源泉となりました。

医薬術いやくじゅつも例外ではなく、主に中国から輸入された知識や薬が医療の中心となり、病やまいに苦しむ人々を助けました。奈良県でも、民衆を救済するため、多くの寺院などにおいて、施薬せやくとよばれる薬ほどこの施しが行われました。

当時の薬は、その原料の大部分が天産物てんさんぶつであったため、薬用植物の確保が重要な問題でした。中国などから種苗しゅびょうの輸入に努める一方、日本国内に自生する薬草の調査と栽培に、大きな力が注がれました。そのような状況の中で、奈良県ではいくつかの薬草園やくそうえんが造られ、優良な薬用植物の種苗研究しゅびょうけんきゅうと栽培が行われました。それらは「大和物やまとも」とよばれ、品種が良いことで、現在も全国で有名です。

一方、富山と時期をほぼ同じくして、奈良県においても江戸時代に置き薬の産業おこが興りました。その後、数々の悪条件を乗り越えて発展し、「大和売薬やまとばいやく」として確立し、現在でも確固たる地位を保っています。

この冊子を読んで、皆様に「奈良のくすり」への興味を持っていただく機会となれば幸いです。

2019年2月